

企業景況調査報告書

(令和4年4～6月期)

< 目次 >

質問1 調査の概要・結果概要	1
質問2 直面している経営上の問題点	2
質問3 設備投資について	3
質問4 意見等自由記載欄	4
DI集計結果・分布	5
調査票様式	6

倉吉商工会議所

倉吉市明治町 1037-11

TEL 0858-22-2191

FAX 0858-22-2193

Email cci3103@kurayoshi-cci.or.jp

倉吉商工会議所企業景況調査報告書（2022年4～6月）

調査対象企業

倉吉市内の商工会議所会員企業 100 社

（建設業 21 社、製造業 19 社、卸売業 11 社、小売業 22 社、サービス業 21 社、その他 6 社）

調査方法

各事業所宛に FAX にて調査票を送付し、FAX にて返信依頼。必要に応じて訪問回収。

調査時期

令和 4 年 7 月上旬～令和 4 年 7 月中旬

回収状況

91 社（回収率 91%） ※前回（1～3 月）90 社

（建設業 19 社、製造業 18 社、卸売業 10 社、小売業 19 社、サービス業 20 社、その他 5 社）

全業種の業況 DI は、今期は上昇、来期も上昇する見通し

<今期の状況>（5 ページ表参照）

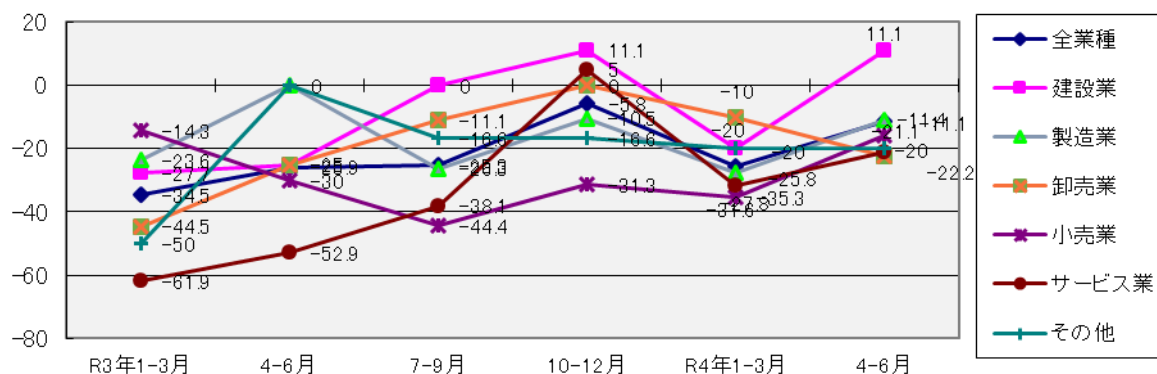
今期の全業種の業況 DI は、前年同期比で前期の▲25.8 から 14.4 ポイント上昇し、▲11.4 となった。業種別に見ると、それぞれ建設業は 11.1（▲20.0）、製造業は▲11.1（前期▲27.8）、卸売業は▲22.2（前期▲10.0）、小売業は▲15.8（前期▲35.3）、サービス業は▲21.1（前期▲31.6）、その他の業種は▲20.0（前期▲20.0）で、4 業種で上昇、1 業種で下降、1 業種で横ばいとなっている。

<来期の見通し>（5 ページ表参照）

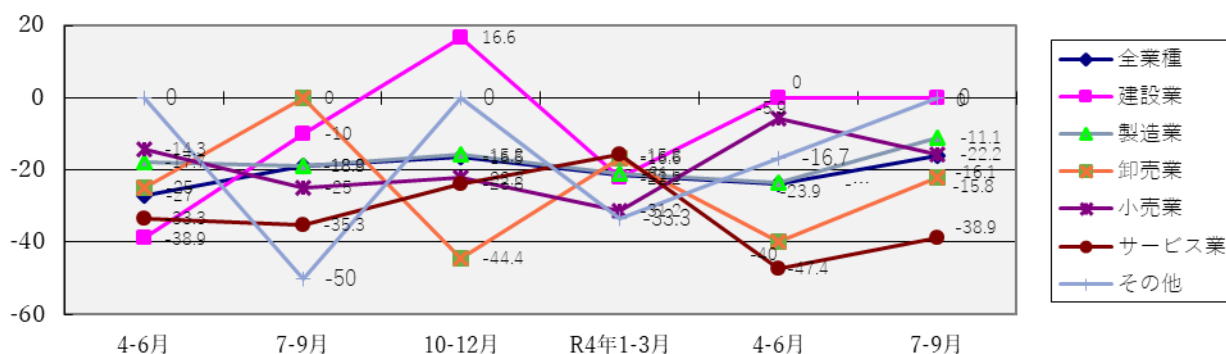
来期の見通し（2022 年 7～9 月）では、全業種の DI 値は前期の▲23.9 から上昇し、▲16.1 となった。業種別に見ると小売業は▲15.8（前期▲5.9）と下降する見通しとなった。一方で、製造業は▲11.1（前期▲23.5）、卸売業は▲22.2（前期▲40.0）、サービス業は▲38.9（前期▲47.4）、その他の業種は 0（前期▲16.7）と 4 業種で上昇する見通しとなった。また、建設業は 0（前期 0）で横ばいの見込みである。今期の状況は大半の業種で上昇しており、来期もわずかに上昇する見通しを示す結果となった。経営上における課題としては、「原材料・仕入価格上昇」が前回に引き続き全業種で上位に挙げられた。また、卸売業では「売上・受注減少」が前回よりも上位に挙がる結果となった。

<業況判断 DI の推移> ※今期の DI 値集計結果については P5 をご参照下さい。

(1) 今期の状況 <業種別>



(2) 来期の見通し<業種別>



質問2 直面している経営上の問題点（上位3点を回答）

01 競争激化 02 消費・需要の停滞 03 売上・受注減少 04 売上・受注単価低下
 05 原材料・仕入価格上昇 06 原材料・在庫不足 07 原材料・在庫過剰
 08 店舗・生産設備不足・老朽化 09 店舗・生産設備過剰 10 経費の増加 11 人手不足
 12 人手過剰 13 利益率低下 14 代金回収難 15 資金繰り難 16 新分野進出
 17 その他:具体的に()

〔上位項目〕

※（ ）内は件数

分類		1 位	2 位	3 位
全業種	当 期	原材料・仕入価格上昇 (56)	消費・需要の停滞 (37)	売上・受注減少 (33)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (50)	売上・受注減少 (40)	消費・需要の停滞 (34)
建設業	当 期	原材料・仕入価格上昇 (15)	人手不足 (9)	利益率低下 (8)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (15)	売上・受注減少 (10) 人手不足 (10)	利益率低下 (6)
製造業	当 期	原材料・仕入価格上昇 (15)	売上・受注減少 (7) 経費の増加 (7)	店舗・生産設備不足・老朽化 (5)
	前 期	原材料・仕入価格上昇 (14)	売上・受注減少 (8)	店舗・生産設備不足・老朽化 (6)
卸売業	当 期	売上・受注減少 (7)	消費・需要の停滞 (5) 原材料・仕入価格上昇 (5)	経費の増加 (10)
	前 期	競争激化 (6) 原材料・仕入価格上昇 (6)	消費・需要の停滞 (4) 売上・受注減少 (4)	利益率低下 (13)
小売業	当 期	消費・需要の停滞 (14)	原材料・仕入価格上昇 (8)	売上・受注減少 (7)
	前 期	消費・需要の停滞 (13)	売上・受注減少 (10)	原材料・仕入価格上昇 (6) 経費の増加 (6)
サービス業	当 期	原材料・仕入価格上昇 (11)	消費・需要の停滞 (7)	競争激化 (6) 売上・受注減少 (6) 人手不足 (6)
	前 期	消費・需要の停滞 (9)	原材料・仕入価格上昇 (8)	売上・受注減少 (7) 人手不足 (7)
その他	当 期	経費の増加 (4)	消費・需要の停滞 (2) 原材料・仕入価格上昇 (2)	競争激化 (1) 売上・受注減少 (1) 売上・受注単価低下 人手不足 (1) 新分野進出 (1) その他 (1)
	前 期	経費の増加 (4)	競争激化 (2) 利益率低下 (2) その他 (2)	消費・需要の停滞 (1) 売上・受注減少 (1) 原材料・仕入価格上昇 (1) 人手不足 (1)

17 その他

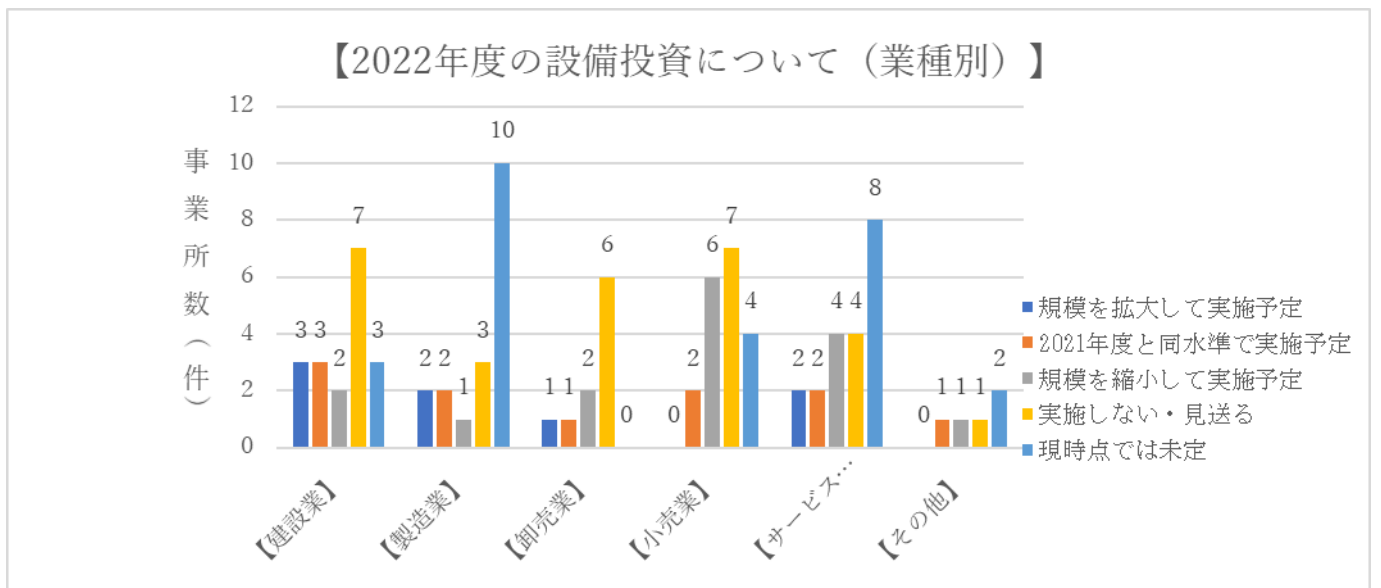
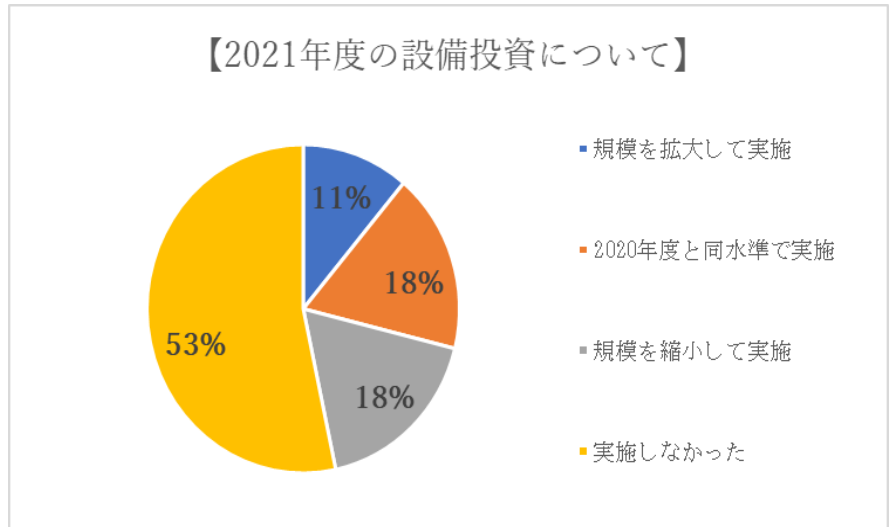
- ・コロナの影響
- ・人口減少
- ・売上構成の変化

質問3 設備投資について

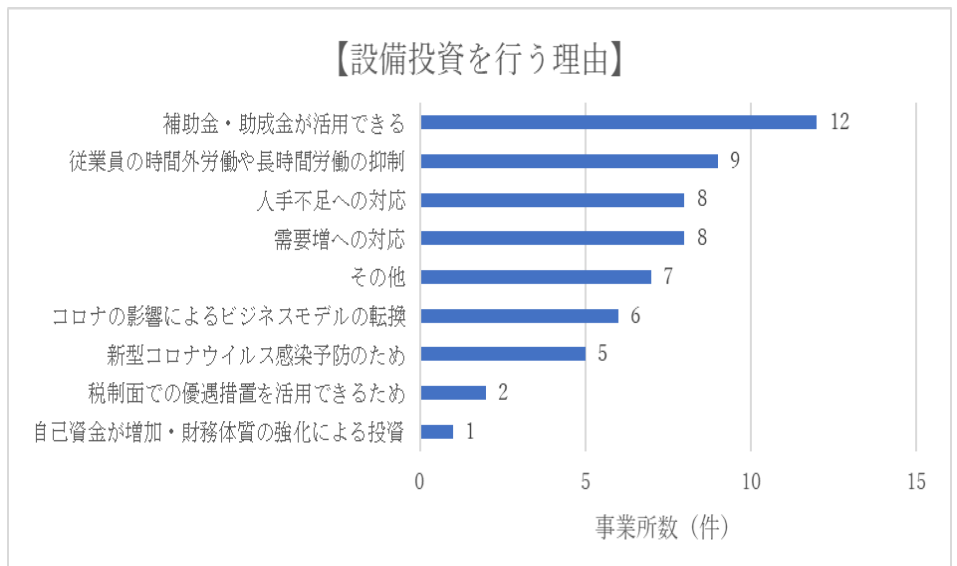
全体の約半数の事業者が2021年度の設備投資を見送っている

2021年度の設備投資の状況については、「実施しなかった」がおよそ半数と最も多く、次いで「2020年度と同水準で実施」と「規模を縮小して実施」がそれぞれ約2割、「規模を拡大して実施」が約1割を示す結果となった。設備投資については、実施した事業所と実施していない事業所がおよそ半数ずつとなっていることが窺える。

一方、2022年度の業種別の設備投資の見込みを見ると、「実施しない・見送る」と「未定」の回答が目立っており、先行き不透明な昨今において設備投資の見通しが立たない現状が露呈する結果となった。また、「実施予定」との回答が多かったのは建設業、小売業、サービス業の3業種であった。



設備投資を行う理由については、「補助金・助成金が活用できる」が最も多く、次いで「従業員の労働時間の抑制」「人手不足への対応」「需要増への対応」などさまざまな理由が挙げられた。また、「コロナの影響によるビジネスモデルの転換」や「新型コロナウイルスの感染予防のため」など新型コロナウイルスを契機とした設備投資もあり、コロナ禍においても前向きに設備投資や事業に取り組む事業所も多くみられた。



質問4 現在の景況感、経営上の問題点についての意見又、行政等への要望について

【建設業】

- ・毎月のように原材料の値上げやメーカーからの値上げが著しい状況です。このままでは顧客が減ってしまったり、工事ができず、困られる方が増えてしまうのではないかと心配しています。
- ・人手不足に頭を抱えています。
- ・コロナウイルス濃厚接触者の自宅待機期間の短縮、物価高騰に対する政府の補助
- ・資材価格の高止まりで粗利がダウンしている。救済措置をお願いしたい。

【製造業】

- ・円安が急すぎて、仕入れが大幅アップしている。
- ・ウッドショックによる原材料単価の高騰に苦戦しています。売単価に少しは転嫁していますが、限界があり、今後が心配です。
- ・鉄鋼、木材、燃料などの価格の急騰は商品価格への転嫁では賄えない。IT化・DX化の必要性を感じるがついていけない。
- ・少しずつではあるが売上がコロナ前に戻りつつある。
- ・祭り、イベント等復活している様なので、期待したいが、コロナ次第なのかな。

【卸売業】

- ・コロナの動向がまったく予想つかず、その上物価高に伴う消費の停滞が続いています。賃金の上昇は困難な状況で、対応策が見つかりません。

【小売業】

- ・来店者数減少が深刻
- ・コロナによるイベントの中止（幼稚園、小学校など）のキャンセル、延期が直撃

【サービス業】

- ・コロナ、ロシアの侵攻、円安で国民の生活は大変厳しい。生活苦の方に補助を。農家の皆様は資材価格がUPしています。生産物価格維持のため「地産地消」と市が声を大にしてほしい。倉吉市（中部地区）の配布物にも。新市長誕生を機会に地産地消に関するアクションを考えていただきたい。農業産地維持のためにもお願いいたします。
- ・#WeLove山陰キャンペーンで恩恵を得ている業種があるが、飲食店で使えたらよかった。何かにつけて飲食店が注視されているが、感染率は低い。どこの飲食店でも使用できる券が良い（認証店だけでなく）。
- ・人口減による経営悪化は避けられない。現役人口不足。
- ・業種間の人材移動をはかっていただきたいです。起業意欲のある方を募ってほしいです。
- ・ガソリン代・電気代等のコスト高により不景気に拍車がかかりそうです。ガソリン減税等エネルギー対策をしてほしい。できないなら、思い切った財政出動等の経済対策をお願いしたいと思っております。尚、不景気での失業者増加は私たちにとって短期的に悪いことではないと思っております。しかし、長期的には悪い方向に響いてくるのではないかと心配しております。
- ・コロナ第7波の影響など先行き不透明。
- ・同じことの繰り返しになっていると思う。コロナはなくならないと思うので、感染者のみにしていき、濃厚接触者は考えないようにしてほしいです。
- ・コロナの流行によって景況が左右されます。2、3月と7月はとても悪いです。

D I 集 計(前年同期比=2021年4~6月期、来期の見通し=2022年7~9月期)

【製造業・非製造業別】

	1. 売上高		2. 売上単価		3. 収益状況	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-8.9	-9.3	23.9	21.2	-17.1	-25.3
製造業	-5.5	0.0	38.9	22.2	-11.1	-16.6
非製造業	-9.7	-11.6	20.0	20.9	-18.6	-27.5

	4. 資金繰り		5. 借入難度		6. 雇用人員	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-4.5	-4.6	3.4	1.2	0.0	-1.1
製造業	-16.7	-5.5	0.0	-5.6	5.5	11.1
非製造業	-1.5	-4.3	4.3	2.8	-1.4	-4.3

	7. 業況判断	
	前年同期比	来期の見通し
全業種	-11.4	-16.1
製造業	-11.1	-11.1
非製造業	-11.4	-17.4

【業種別】

	1. 売上高		2. 売上単価		3. 収益状況	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-8.9	-9.3	23.9	21.2	-17.1	-25.3
建設業	5.2	0.0	15.8	27.8	-10.5	-16.7
製造業	-5.5	0.0	38.9	22.2	-11.1	-16.6
卸売業	20.0	22.2	44.5	44.5	0.0	-20.0
小売業	-22.2	-22.2	38.9	16.6	-33.3	-31.5
サービス業	-25.0	-31.5	5.3	5.9	-33.3	-41.2
その他	-20.0	0.0	-20.0	20.0	20.0	-20.0
非製造業	-9.7	-11.6	20.0	20.9	-18.6	-27.5

	4. 資金繰り		5. 借入難度		6. 雇用人員	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-4.5	-4.6	3.4	1.2	0.0	-1.1
建設業	10.5	0.0	10.6	5.6	5.2	-5.3
製造業	-16.7	-5.5	0.0	-5.6	5.5	11.1
卸売業	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	-11.7	0.0	0.0	0.0	-5.2	0.0
サービス業	-10.0	-15.8	5.0	5.0	-10.5	-11.1
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
非製造業	-1.5	-4.3	4.3	2.8	-1.4	-4.3

	7. 業況判断	
	前年同期比	来期の見通し
全業種	-11.4	-16.1
建設業	11.1	0.0
製造業	-11.1	-11.1
卸売業	-22.2	-22.2
小売業	-15.8	-15.8
サービス業	-21.1	-38.9
その他	-20.0	0.0
非製造業	-11.4	-17.4

※DI値

売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表します。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示します。

したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するものです。DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

倉吉商工会議所企業景況調査票(2022年4~6月期)

調査元: 倉吉商工会議所 TEL:22-2191

FAX:22-2193

【質問1】前年同期と比較した今期(2022年4~6月)の状況と、今期と比較した来期(2022年7~9月)の見通しについて、最も近いものに○印をお付けください。

1) 売上高	(前年同期比)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
	(来期の見通し)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
2) 売上単価	(前年同期比)	1. 上昇	2. 不変	3. 低下
	(来期の見通し)	1. 上昇	2. 不変	3. 低下
3) 収益状況	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
4) 資金繰り	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
5) 借入難度	(前年同期比)	1. 容易	2. 不変	3. 困難
	(来期の見通し)	1. 容易	2. 不変	3. 困難
6) 雇用人員	現在の従業員数	人(うち正規雇用者 人)		
	(前年同期比)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
7) 貴社の業況	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化

【質問2】今期直面している経営上の問題点について、重要度の高い順に該当する番号を回答欄へご記入ください。

- | | |
|------------------|-------------|
| 01 競争激化 | 10 経費の増加 |
| 02 消費・需要の停滞 | 11 人手不足 |
| 03 売上・受注減少 | 12 人手過剰 |
| 04 売上・受注単価低下 | 13 利益率低下 |
| 05 原材料・仕入価格上昇 | 14 代金回収難 |
| 06 原材料・在庫不足 | 15 資金繰り難 |
| 07 原材料・在庫過剰 | 16 新分野進出 |
| 08 店舗・生産設備不足・老朽化 | 17 その他:具体的に |
| 09 店舗・生産設備過剰 | () |

回答欄

1位 _____

2位 _____

3位 _____

【質問3】新型コロナウイルス感染症や円安、物価の高騰の状況が続き、先行きの不透明さが増す中、設備投資に慎重にならざるを得ないという声があります。それに関連して以下の質問にご回答ください。

1. 2020年度と比較した場合の2021年度の設備投資について選択肢から1つお選びください。

- ① () 規模を拡大して実施 / ② () 2020年度と同水準で実施 / ③ () 規模を縮小して実施
④ () 実施しなかった

2. 2021年度と比較した場合、2022年度の設備投資について選択肢から1つお選びください。(実施済みを含む)

- ① () 規模を拡大して実施予定 / ② () 2021年度と同水準で実施予定
③ () 規模を縮小して実施予定 / ④ () 実施しない・見送る / ⑤ () 現時点では未定

3. 【2. で①~③と回答した方】設備投資を行う理由について選択肢からお選びください。(複数回答可)

- ① () 人手不足への対応 / ② () 従業員の時間外労働や長時間労働の抑制
③ () 需要増への対応 / ④ () コロナの影響によるビジネスモデルの転換
⑤ () 自己資金が増加・財務体質が強化による投資 / ⑥ () 資金調達の円滑化による投資
⑦ () 設備投資コストが下落したため / ⑧ () 販売や生産状況等のデータ収集
⑨ () 補助金や助成金等を活用できるため / ⑩ () 税制面での優遇措置を活用できるため
⑪ () 従業員や来客者等の新型コロナウイルス感染予防のため
⑫ () その他 ()

【質問4】現在の景況感、経営上の問題点についての意見又、行政等への要望についてご記入ください。